

連盟	東京都社会人連盟	氏名	千葉美幸
----	----------	----	------

(1) 概要

名称	平成 30 年度 U28 ヤングオフィシャルキャンプ
期間	2019 年 1 月 4 日 (金) ~ 2019 年 1 月 5 日 (土) (2日間)
場所	ヤマト市民体育館 (群馬県前橋市上佐鳥町 460-7)
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 3PO メカニクス座学、実技 ・ ガイドライン (判定基準) 解説 ・ 英語コミュニケーション実践 ・ プレゼンテーション ほか
目的	若年層からの FIBA レフェリー、トップリーグレフェリーの育成
参加者	28 名 (男性 21 名、女性 7 名)

(2) 報告事項

内容
<p>■ 1 日目 1 月 4 日 (金)</p> <p>8:20 集合 (タクシー)</p> <p>9:00 開講式 JBA 審判担当ダイレクター挨拶 宇田川貴生氏</p> <p>・ 講師紹介 上田篤拓氏</p> <p>(講師: 阿部哲也氏・前田喜庸氏・加藤誉樹氏・有澤重行氏・堀内純氏・熊谷久美子氏・福岡敏徳氏 上田篤拓氏・宇田川貴生氏 運営: 岩田千奈美氏)</p> <p>9:10 講義①「インテグリティについて」(鈴木 淳氏)</p> <p>・ インテグリティに必要な人間力について</p> <p>10:15 講義②「3PO メカニクスについて」(福岡敏徳氏・熊谷久美子氏・上田 篤拓氏)</p> <p>・ メカニクス・IOT について</p> <p>・ それぞれのポジション・プライマリ・アングルについて</p> <p>11:20 昼食</p> <p>12:00 実技① 第 1 試合 (C コート) (主任①: 前田喜庸氏)</p> <p>13:20 実技② 第 2 試合 (D コート) (主任②: 加藤誉樹氏)</p> <p>※内容: ハーフゲームを 3PO で実践。以下、講師の方々から頂いたアドバイスを記載。</p> <p>①前田喜庸氏より</p> <p>⇒○ローテーションのタイミングでは、自分のタイミングだけで動くとローテーションのミスに繋がっている為、状況判断を行うこと。(例: ボールがパイプにある場合はクローズダウンポジションでステイ)</p> <p>○プライマリについては、check in・check out を行うことで、自分のエリアの意識をもつこと。</p> <p>○オールコートでの C の位置取りでは、2 ペアがある場合、センターラインではなく必要な位置への位置取りを行うこと。</p> <p>②加藤誉樹氏より</p> <p>⇒○判定するためのポジション・アングルでは、どのような理由を基に位置や判定しているかを、それまでに</p>

至るプロセスを自分の頭の中で考えて笛に表すこと。(自分のプライマリーなのか・DF はリーガルなのか・イリーガルなのか、など)

○プレゼンテーションでは、走り方や走る場所への工夫を行うこと。(どこでレポートを行うのかなど)

14:45 講義③「FIBA/トップリーグレフリーの取り組み」(加藤誉樹氏)

・プレゼンテーションについて (①STRONGBODY②VERBALSUPPORT③SIGNALS④INCHARGE)

—強さだけではなく、強さの中にも HUMBLE (謙虚さ) が大切。

—「ゲームは商品」であるということ。

・TOP レフリーの1日について

・トレーニング内容について (FIBA からトレーニング内容が来て、期限までにこなさなければならない。)

16:00 実技③ 第4試合 (Aコート) (主任:有澤重行氏)

17:20 実技④ 第5試合 (Bコート) (主任:熊谷久美子氏)

*実技④のみ1クウォーター

③有澤重行氏より

⇒○オールコートでのポジションアジャストについて、C側でのプレッシャーがかかった時に、C主導にならず、L主導で動くタイミングとTの出来るだけ早いフロントコートへの移動をするなど、クルーでの状況理解と協力が大切である。

○Cでのアジャストの仕方では、Cのレベルの上げ・下げを上手く使うこと。

④熊谷久美子氏より

⇒TとCでの境目でのジャッジについて、相手が checkout しているのか、エリアやどちらが先に長くとらえて入れたのかなどを考えて、判定すること又鳴らす場合にはセカンダリーとして鳴らす。

19:00 ホテルへ移動 (タクシー) / チェックイン

■2日目1月5日(土)

8:30 ホテル出発 (タクシー)

9:00 講義④「映像検証・英語でのディスカッション」(有澤重行氏・堀内純氏・上田篤拓氏)

〈ワークショップの進め方〉

30分間—クルーでのグループ確認。(英語のみでのディスカッション)

60分間—グループ毎にディスカッションした内容を英語で発表。

・試合の映像を見て、メカニクス・ジャッジ・プレゼンテーション・ゲームコントロールについて英語のみでディスカッションをし、ディスカッションした内容を一人ずつ発表する。ワークショップを通して、「伝える」ことがいかに重要であるかと知った。文法を用いて話すことも大切であるが、ゲーム中のタイムアウトなど、時間が限られている中で、何を伝えたいのかを端的に伝える・伝えるキーワードをしっかりと自分が持っているかなどが重要であると思った。また、苦手意識を持ってしまう中でも、怖がらず積極性を大切にしていきたい、又場面を想定して、会話の知識を増やしていきたい。

11:00 第1試合 (Cコート) (主任:前田喜庸氏)

⑤前田喜庸氏より

⇒○Cでの見るべきところについては、ボール中心になってしまい、見るべきところを超えてしまっている為、セルフトークを上手く使い、自分のエリアの意識を持たせる。

○ジェスチャーについて、ヴァイオレーションでの手の使い分け

12:20 第2試合 (Aコート) (主任:有澤重行氏)

⑥有澤重行氏より

⇒○U2としてもポゼッションの確認など出来ることを行うことで、CCメンタリティーとも繋がり、又ミス

なくすことにも繋がっていく。

15:30 閉講式

所 感

本研修では、講義や実技、英語でのディスカッションなどたくさんの経験をさせて頂きました。

その中で、自分の課題も見つけることが出来ました。

- ・自分のプライマリーを超えて判定してしまうこと
- ・セカンダリーとしての意識
- ・判定をする為の、ポジションやアングル、笛への表し方

今後、3POのメカニクスをしっかりと理解し、自分の中で理解するだけではなく、それをコートで表現できるようにしなければいけないと感じ、また、ベーシックなことをしっかりと行うことが大切であると感じました。

今回頂いた反省など、すぐに直せることや時間をかけていかなければならないことは、しっかりと意識をもって今後のレフリー活動に取り組み、自分のプラスになるように繋げていきたいです。

今回、U28ヤングキャンプに参加する機会を頂き、ありがとうございました。全国から集まった審判の仲間との関わりは、自分にとって大切な時間になりました。今後も、学ぶ姿勢を忘れず審判活動に取り組んでいきたいと思えます。

研修に対してご尽力いただきました、講師の方々をはじめ、日本バスケットボール協会審判部の方々に厚くお礼申し上げます。ありがとうございました。